

平泉藤原氏の時代、当地域は、その一門である樋爪氏の支配下にあった。樋爪の苗字は居住地の地名に拠ったもので、「比爪」あるいは「肥爪」・「火爪」とも書き、いずれも後世の「日詰」と同訓である。樋爪館を本拠とし、志波郡の西部を領して権威があったようである。

—「紫波町史(第1巻)」1972 紫波町発行—

◎ 赤石小学校を会場にした第8回定期講演会が盛会裡に終了

6月3日の岩手県立博物館主任専門学芸員羽柴直人さんを招いて開催した講演会「樋爪氏と平泉の関係」が、お陰さまで無事に終了しました。約50人の参加者が郷土の文化遺産を再認識し、深い感銘を受けました。共催・後援の機関・団体や赤石小学校の皆さまのご支援ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

《《《 7～8月行事予定のお知らせ 》》》

<p>7月 8日 (日曜日)</p> <p>第2回樋爪館遺跡めぐり —五郎沼周回路完成記念—</p> <p>※ 7月1日の当初予定 が変更になりましたので、ご注意ください。</p>		<p>午前8時30分 JR日詰駅(賢治歌碑前)集合</p> <p>～樋爪館周辺説明板～遺跡出土箇所説明板～大莊巖寺跡擬定地～五郎沼薬師神社～阿弥陀堂～箱清水石卒都婆群～古代蓮の池～五郎沼説明板～山吹川～五郎沼南端～蛇の塚(経塚)跡～嶋の堂観音～夜泣き石～清水端・古碑～樋爪館大溝跡～樋爪館跡標示板～ 赤石小学校・日詰駅</p> <p>午前11時30分散散予定(全行程約2km) 参加料300円(資料代込み) 雨具・飲み物等持参</p>
<p>7月 18日 (水曜日)</p>	<p>第32回月例懇話会 会員発表・意見交換等</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：桜井芳彦 テーマ：比爪館について(1)</p>
<p>8月 15日 (水曜日)</p>	<p>第33回月例懇話会 会員発表・意見交換等</p>	<p>午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：桜井芳彦 テーマ：比爪館について(2)</p>

—?—?—?—?—?— 樋爪氏 / 樋爪館 —?—?—?—?—?—

Part 2

俊衡には師衡(もろひら)・兼衡・忠衡の3人の息子がおりましたが、協力して広い郡内の統治に当たっていたはずです。

樋爪館があったからと言うだけではなく、紫波と藤原氏は浅からぬ因縁があるようです。紫波町東部の赤沢地区には清衡の父経清の頃から、深い関わりがあったとする伝説があり、赤沢地区中心部にある白山神社の参道脇には、経清の母の供養碑(墓碑と言われたりもする)といわれる石碑があります。供養碑は後年に建てられたようですが、紫波と藤原氏との因縁の深さを思わせる伝承です。

(3) 樋爪氏の造営

紫波の統治を委ねられた樋爪氏は、自らの

居館であり政務の場である樋爪館を造営する際、大規模な土木工事によって巨大な沼(五郎沼)も構築しました。樋爪館は、平泉は別にして、藤原三代に関連する居館の中で、最も規模が大きく、最も重要な「館(たち)」であったとみなされていました。

しかし残念なことに、この樋爪館も平泉崩壊と運命を共にしなければなりません。抗しきれないと悟った樋爪一族の手によって炎上し、廃墟となってしまったのです。今となっては、遺跡によって当時を偲ぶほかありません。

発掘を主とした樋爪館の調査は、大正年間に岩手県が行った史跡名勝(つづく)

◇ 7月の月例会は「比爪館について」桜井芳彦さんが会員発表！

赤石地区ひづめ館懇話会では、毎月第3水曜日の午後7時から赤石公民館で月例会を開き、会員が収集した樋爪氏・樋爪館関連資料の発表と話し合いをしています。会員以外の方には資料代200円の負担がありますが、いつでも、どなたでも大歓迎ですので、お気軽に参加してみてください。

7月18日(水)は紫波町教育委員会で長い間、発掘調査を担当されていた桜井芳彦さんの会員発表が行われます。

桜井さんには引き続き数回のシリーズとして発表していただく予定ですが、20回以上に及ぶ樋爪館遺跡発掘調査の全容にせまる発表になるものと期待されます。

◇ 五郎沼周回路完成！

これまで沼の南東部にあった民家が撤去されたことから、地域の皆さんの協力で周回路が整備されました。

この場所は「蛇の塚」と呼ばれ、戦前の郷倉建築の際に平泉藤原氏時代の経塚が発見された場所と言われています。

斜面の2か所に階段が取り付けら通りやすくなり、岩手山も遠望できる素晴らしい眺めです。

草刈り等の労力奉仕を今も引き続き行っている皆さんに感謝しながら、会の活動に活用していきたいと考えています。

2012年(平成24年)6月6日(水曜日)

岩 手 日 報

比爪は平泉に匹敵

羽柴さん(県立博物館学芸員)が講演

紫波町

郷土の歴史を学ぼうと、紫波町赤石地区ひづめ館懇話会(高橋敬明会長)などが主催した講演会「比爪(樋爪)氏と平泉の関係」は、同町南日詰の赤石小で3日に開かれ、県立博物館主任専門学芸員の羽柴直人さんが、比爪は平泉藤原氏の時代、どついつ拠点地区だったのかを解説した。地元で約50人が聞き入った。



平泉藤原氏の時代に、比爪館のあった比爪がどういった都市構造をしていたか講演する羽柴直人さん(右)

赤石小の校庭部分に

が見つかった。遺跡は現在町史跡に指定されている。平泉藤原氏初代清衡の子の一人がこの地を支配した際の居館と伝わる。鎌倉幕府の歴史書吾妻鏡には文治5年(1189)年9月4日、奥州合戦で頼朝が志波郡に進駐した際、比爪俊衡法師が館を焼き逃したと記されている。羽柴さんは太平洋戦争後の1948年(昭和23年)ごろ、米軍が撮影した南日詰一帯の空撮写真や、紫波町役場が保管する明治期の地籍地図などから12世紀、平泉藤原氏の時代の比爪館周辺の区画や道路を復元した。「比爪館の発掘は限られていますが、近年近くの小路口遺跡が調査され道路遺構が見つかった。機能や構造を有し、規模も平泉に匹敵する」

は比爪氏の居館・比爪館が12世紀に存在し、遺跡からは発掘調査で同時期のかわらけなど書写妻鏡には文治5年(1189)年9月4日、奥州合戦で頼朝が志波郡に進駐した際、比爪俊衡法師が館を焼き逃したと記されている。ほかにも東西路を基軸として横並びの都市構造がみてとれ、それや、平泉の2代基衡期の都市構造と類似している点を挙げ「比爪は平泉に従属しているのではなく、同等の関係だ」と思う。都市的な機能や構造を有し、規模も平泉に匹敵する

赤石地区ひづめ館懇話会ボランティアガイド
樋爪館跡の道案内人

本年度からスタートしました。

日程・コース等ご相談に応じますので、事前にお問い合わせください。

090-3125-3776(高橋)

赤石地区ひづめ館懇話会
会員募集中

会費 年額 1,000円

主旨に賛同する方は、どなたでも歓迎
申込は、赤石公民館内の事務局まで。

019-676-3999